

特別支援教育研究会

8月の勉強会

「特別支援教育を通常学級でどう取り入れるか？」

平成24年8月26日(日)

教諭 関口 佳美

1

はじめに

今日の予定

子どもをどう捉えるのか
(基本姿勢)
特別支援教育を学級作りの中心に
自分のクラスを分析しよう

2

分析してみよう①

主訴

- ・小3 男児
- ・字が雑
- ・字が枠からはみ出す
- ・拗音や促音が書けない

検査の様子(聴写)

「ぼくはぎゅうにゆうがだいすきだ」を聞いて書く。

- ・書くのがゆっくり
- ・字が枠からはみ出す
- ・「ぎゅうにゆう」を「ぎょによう」と書く

3

分析してみよう②

この検査結果から
何がわかりますか？

4

分析してみよう③

こんなことが考えられます

5

適切な支援につながるアセスメント

- 「文が書けない」
- 「漢字の習得と使用が難しい」



- ・「視覚認知に課題がある」
- ・「聴覚認知に課題がある」
- ・「感覚の統合と運動に課題がある」

6

視覚認知に課題がある

- 視覚障がい 弱視
- 視力の弱い子ども
- 色覚障がい 斜視 視野狭窄 その他眼科的な問題がある子ども
- 見るシステムに弱さがある子ども

7

見るシステムに弱さがある子ども

- 注視、眼球運動
- 形態知覚や空間知覚
- 手と目の協応

8

子どものとらえ直しを

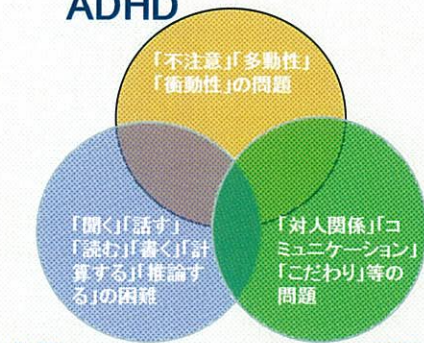
- あいまいな(おおまかな)とらえでは？
- 今までの経験で考えていませんか？
- 予想や思いこみをしているのでは？



その子を見つめ、理解を深めよう
きっと見えてくることもある

9

ADHD



LD

PDD

10

発想の転換

- いちばん変わるべきは教師の意識
- 課題が大きくなったり、行動がエスカレート



- 困っているのは教師？ 子ども？

11

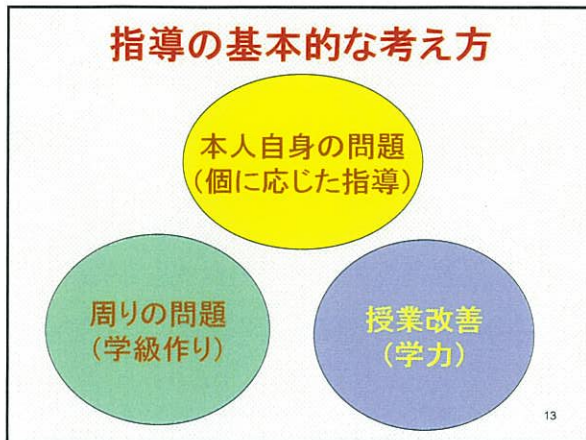
支援の場は通常学級

- 取り出し指導も効果的
- 集団の中でどう生活できるのか
- 生きていくのは集団の中

気付きは担任

困り感やしんどさの共感

12



これからの小・中学校に求められること

(1) 学級担任ができる

- ① 行動・学習の課題の気づき → 記録
- ② 学級担任ができる指導方法・評価
- ③ 課題を予測した対応

2003. 3
 「通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する全国実態調査」6. 3%
 30人のクラス × 0. 06% = 1. 8人

↑

取り出している指導には限りがある。その子どもが常に生活しているのは通常の学級であり、そこでの支援が重要になってくる。

14

(2) 通常の学級を安心感の持てる学級に

↑

特別支援教育が成立するベース

- ① 学級経営の方法
 集団 個に応じた指導 学力
- ② 授業ルールの確立
 ルールは明確に 変わらない
- ③ 通常の教育における行動コントロールの指導方法

↑

声かけ・板書・提示等の仕方が本当に子どもにとどいているのか。

15

授業を大切に

・ **誰もがわかりやすい授業**

- * トーンの低い、明確な指示
- * 視覚支援
- * 見通しの持てる授業構成(流れの提示)
- * 視覚刺激や聴刺激の少ない教室(掲示物、カーテンなど)
- * 一貫したルール、分かりやすいルール
- * 一指示一行動

16

授業を大切に

・ **各学年のつまずきやすい課題に対する対応**

- * 反復練習
- * スモールステップの学習
- * ノートの工夫

それでも分りにくい子ども

→ **特別な支援が必要**

17

学級で大切にしたいこと

① **クラスを子どもの居場所に
 学校での安心感・安定感**

がんばったこと
 できるようになったこと
 ↓
 集団の中でほめる。

↑

自尊感情が高まる
 自信がつく

↑

いろんなよさがあることを知る。
 お互いを大切に思う

18

- ② 学級のルールを作る
「教師の軸」を一定にする。

これだけは許さない
という枠組み

教師への信頼

強い意志

19

- ③ 一人ひとりにあつた対応

長続きするためには

特別難しいことはしない。
自分にできることから。
簡単にできて継続できること。
支援を必要とする子どもにプラスになることは
他の子どもにもプラスになる。

20

スモールステップで

- ・はじめから100%をねらわない
- ・少しがんばればできるめあてを
3回はほめる
できたらすぐほめる
やっている途中でほめる
できたらほめる
- ・見逃すことも必要
35分立ち歩いたことよりも、
10分座っていたことをほめる

21

継続した支援を

- ・3年間・6年間を学校で支援するという視点で
 - ・保幼小連携
 - ・小中連携
市のコーディネーター会議
中学校区別のコーディネーター会議
- ↓
- 校種別・年度・先生によって支援が異なる
とまどい・混乱・不信

22

協働の重要性

- * 一人で抱え込まない
- * 学校ではチームで
- * 保護者との協働
- * 地域の力をかりる

悪者は作らない

23

自分のクラスを分析しよう

1. 一人ひとりにあつた付き合い方をしているか
2. 学級経営は？
クラスが居心地のよい場所になっている
だろうか？
3. 学級のルールは？
4. 授業ルールは？
5. 学力 授業改善は？
6. どの子どもがキーポイントになるだろうか？

24

終わりに

「個を尊重する」

「個に応じた指導」

「一人ひとりを大切にする」



**意味をもう一度考える
この視点を持つことができることから**

ありがとうございました。

